平成29年九州北部豪雨に伴うTEC-FORCE活動概要

平成29年7月5日から6日にかけて、停滞した梅雨前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込んだ影響により、線状降水帯が形成・維持され、同じ場所に猛烈な雨を継続して降らせたことから、九州北部地方で記録的な大雨となり、福岡県朝倉郡東峰村では河川被害が70件、土砂被害が38件、道路被害が81件、大分県日田市では河川被害が1180件、土砂被害が30件、道路被害が375件発生しました。

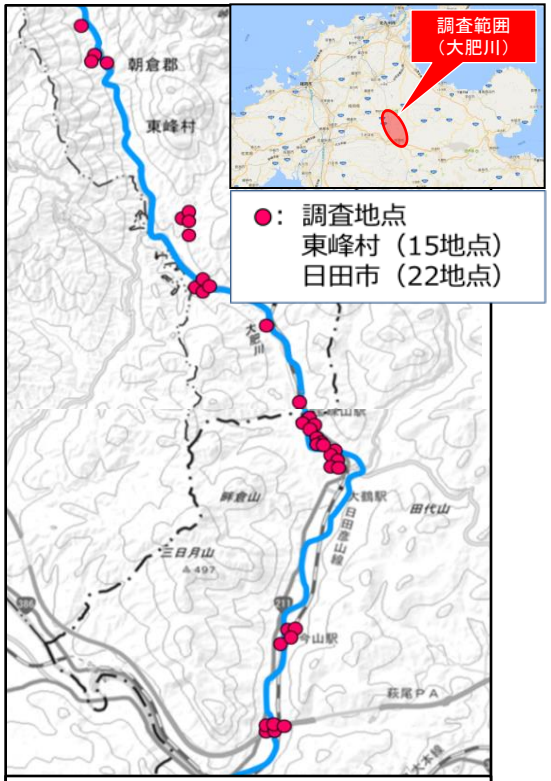
関東地方整備局では、被害の大きい自治体に対しTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）を派遣し、河川、砂防及び道路の被害状況把握を行うとともに、被害拡大の防止、被災地の早期復旧に対する技術的な支援等を実施しました。**京浜河川事務所**においても、7月15日（土）～21日（金）の7日間で**職員4名をTEC-FORCE として福岡県朝倉郡東峰村、大分県日田市に派遣**し、**現地の被災状況調査等を実施しました**。

調査状況（流木調査）： 7／17　11:30頃

堆積した流木による河道閉塞の危険性が危惧される。（二次災害防止を提言）

東峰村澁谷（しぶや）村長に調査結果の中間報告
及び調査範囲の検討状況　:7／17　9:00頃

調査状況（流木調査）： 7／19　9:00頃



調査範囲：筑後川水系筑後川支川大肥川
（福岡県朝倉郡東峰村～大分県日田市）